六花

新潟大学の魅力と現在（いま）を発信

新潟大学季刊広報誌［RIKKA］
2026.SUMMER
&AUTUMN
NIIGATA UNIVERSITY MAGAZINE
No.57

特集

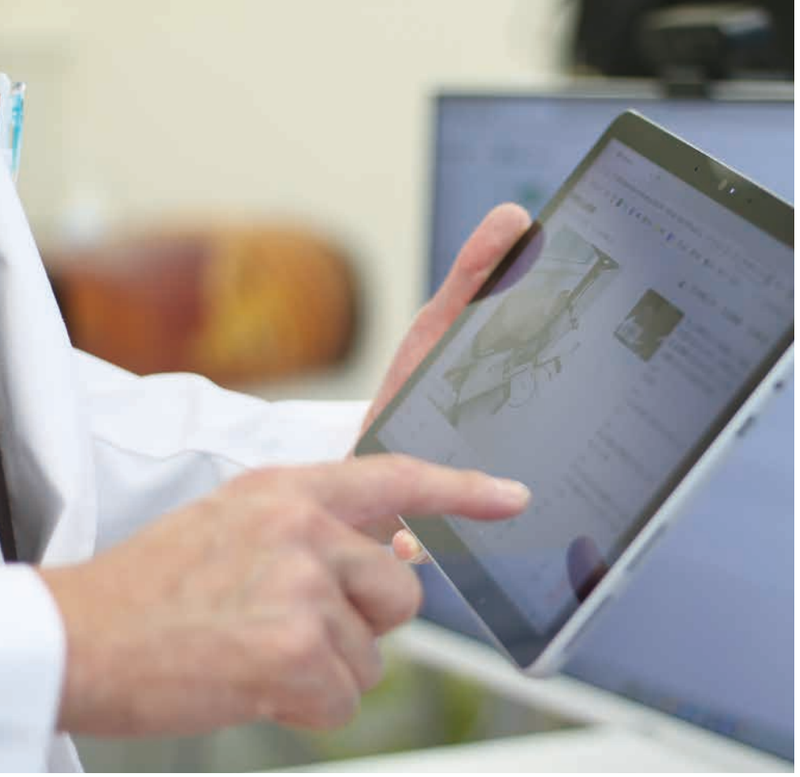
産学官民共創が織りなす地域医療の未来

～新潟発、健康未来社会の実現と持続的ビジネスモデルの構築～

授業紹介 －教育の現場－
Enjoy! **学生ライフ**
注目される研究報告
活躍する卒業生紹介“学びの先”
教員によるコラム“知見と生活のあいだ”
基金関係のお知らせ
Campus Information



真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY



特集

産学官民共創が織りなす 地域医療の未来

～新潟発、健康未来社会の実現と持続的ビジネスモデルの構築～

全国に先駆けて超高齢化と人口減少が進む新潟県。広大な県土において、
医師不足や偏在、医療アクセスの不均衡といった課題が顕著化する中、
新潟大学はデジタル技術と総合知を結集した
地域医療DX共創イノベーションプロジェクト（以下NHDX）を加速させている。
染矢俊幸学長が掲げる「ライフ・イノベーションで人と社会の未来を切り拓く」という
メッセージの下、単なる技術の導入に留まらず、地域社会で持続的に自走する
医療エコシステムの構築を目指す本事業。
その構想と先進的な実証事業、そして現場で未来をデザインする人々の情熱に迫る。

広域・超高齢化社会が抱える医療アクセスの不均衡

新潟県は、全国の20年先を行く超高齢化モデル地域と言われる。広大な山間部や離島を抱え、冬場の積雪という過酷な自然環境も重なる中で、最も深刻な問題として浮かび上がるのが「医療アクセスの不均衡」だ。「医師の偏在や不足、高齢者の通院困難といった点在する地域課題は、すべて必要な医療へアクセスできるかという点に集約されます」と語るのは、プロジェクトメンバーの一人医学部総合診療学講座の上村顕也教授だ。

例えば、県内のある山間地域

「どこに住んでいても必要な医療につながる社会」の実現へ



新潟大学長 染矢俊幸

新潟大学は、地域に根ざす総合大学として、地域が抱える課題に向き合い、その解決を通じて新しい社会の姿をつくることを重要な使命の一つと考えています。人口減少や高齢化、医療人材の不足・偏在など、新潟が直面する課題は、やがて日本全体が直面する課題でもあります。だからこそ、新潟で生まれる解決策には、全国、さらには世界へ広がる可能性があります。

NHDXは、デジタル技術を導入すること自体を目的とするものではありません。大学、医療機関、自治体、企業、地域の皆様が力を合わせ、限られた医療資源を地域全体で生かしながら、「県内のどこに住んでいても必要な医療につながる社会」を実現しようとする取組です。そこにあるのは、病院単位で医療を支える発想から、地域全体で医療と健康を支える発想への転換です。

私は、NHDXの事業代表者として、この取組を新潟の地域医療を支える基盤にとどめず、地域課題を新たな知と仕組みに変え、その成果を全国、そして世界へ広げていく、新潟大学ならではの「共創」のモデルとして育てていきたいと考えています。



Cover Photo

「NHDXポータブルオンライン診療システム」は、既存の汎用端末とインターネット環境のみで利用可能な国内初のオープン型オンライン診療システム。地域の限られた医療資源や既存インフラを最大限に活用しながら持続可能な形で地域医療を支える。

2026.SUMMER&AUTUMN No.57

CONTENTS

03 特集 産学官民共創が織りなす地域医療の未来 ～新潟発、健康未来社会の実現と持続的ビジネスモデルの構築～

08 授業紹介 －教育の現場－

09 Enjoy! 学生ライフ

10 注目される研究報告

12 活躍する卒業生紹介“学びの先”

13 教員によるコラム“知見と生活のあいだ”

14 基金関係のお知らせ

16 Campus Information

新潟大学SNS公式アカウント
@Niigata_Univ_O
@niigata_university
@niigata.univ

『六花』とは…

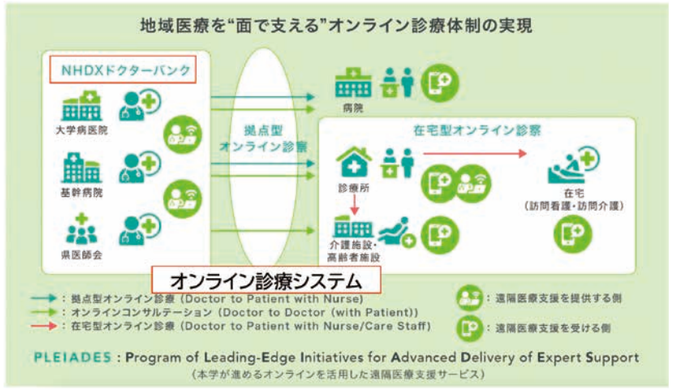
本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。

題字
野中浩俊（のなか ひろとし）氏
新潟大学名誉教授
（教育人間科学部）。
専門は、書道、富岡鉄斎研究。

医療のデジタル化は人と人の対話や臨床現場を守る



※図：生成AIにより作成



※図：生成AIにより作成

では、2022年時点の人口構成が日本全体の20年後の予測数値を先取りしている。域内に病院はわずか1つ。広大な地域に数か所の診療所が点在するものの毎日開院しているわけではない。病院へ向かうバスは1日に数本しか走っておらず、通院そのものが高齢者や家族にとって大きな負担となっている。

こうした「20年後の日本の縮図」とも言える地域課題に対し、新潟大学は先端技術と知見を結集。デジタルの力を用いて、どこに住んでいても安全・安心な医療・ケアを受けられる環境、すなわち「持続可能な地域づくり」を推し進めている。

「本プロジェクトが掲げるDXには、一般的な“デジタルトランスフォーメーション”の意味に加え、未来社会をデザイン(Design)し、現場で実証(Experiment)していくという意味も込められています。大学が持つ知識を一方的に提供するのではなく、自治体や地域の医療機関、住民とニーズを共有しながら、共に未来をデザインしていくという意思が根底にあるのです」（上村教授）


医学部総合診療学講座
上村顕也 教授

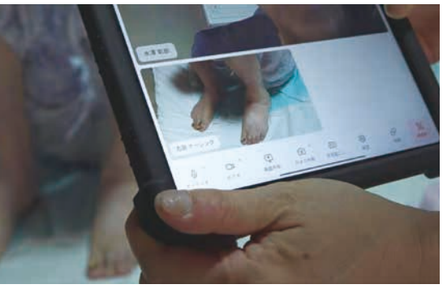
令和8年3月に試作品の開発が完了し、6月より運用を開始したのが「ポータブルオンライン診療システム」だ。これは高いセキュリティを確保しながら、既存の汎用端末とインターネット環境のみで利用可能な、オープン型オンライン診療システム。現在、県内のモデル地域において多角的な実証事業が進行している。その一つが、燕市において実際の患者を対象に展開されているオンライン診療と訪問看護の融合モデルだ。医療過疎地における移動診療車と遠隔の専門医をオンラインで接続。患者の自宅近くで専門的な診察を受診可能にし、通院負担の大幅な軽減が期待される。システムの構築は

大学の「総合知」の結集と持続性

このような全国各地の地域支援プロジェクトにおいて頻繁に課題としてあがるのが補助金の終了に伴う事業の途絶だ。どれほど優れたシステムであっても、資金支援が切れた途端に現場から消えてしまっては意味がない。新潟大学が目指すのは、地域社会に深く根差し、20年先も自走し続ける持続可能な医療エコシステムの確立である。「医療は社会のインフラであり、そのニーズがなくなることはありません。大学が果たすべき役割は、単にシステムを開発して落とし込むことではなく、地域が自らの力で医療・介護・福祉を守っていける方法論を提案し、共に回していく仕組みを作ることです。そのため本事業では、大学が開発した仕組みを医療機関、自治体が連携して運用し、それぞれが役割と費用を分担することで、補助金終了後も地域が主体となって支える持続可能な医療DXモデルの構築を進めています」と上村教授は語る。

この持続性を支える最大の柱が、総合大学としての強みを活かした人材育成である。NHDXプロジェクトには、医学部、歯学部、工学部などの多岐にわたる分野の教員や研究者が横断的に参画。さらに、学部・大学院の基礎教育の段階からこの問題意識を取り入


医学部保健学科
坂井さゆり 教授



現場が抱える具体的な困りごとを理解「使いやすさ」を最優先にシステムを開発


ビヨンドアス株式会社
代表取締役
石野公基さん

今回のシステムは、一般的な院内システムや単一のクリニック内で情報共有を行う仕組みとは異なり、オンラインで地域全体の多様な関係者をつなぐことが焦点となっています。病院内の医師や看護師だけが使うものではなく、在宅医療に関わる看護師や、介護領域に携わるスタッフなど、非常に多様な職種の方々が利用します。そのため、介護現場の業務やケアのあり方を深く理解した上で開発を進めることが極めて重要です。

その点、私自身が医師という立場であることは大きな強みで、現場の医師や看護師が抱える具体的な困りごとを肌で感じた上でシステムを形にしています。最優先に考えたのは「現場での使いやすさ」です。そこで、私自身が実際に現地へ足を運ぶことを何よりも大切にしました。画面上の設計だけで終わらせず、現場の利用環境を直接自分の目で見て、スタッフの動きを確認しながら細かな調整を行うことが、システムを確実に機能させる上で不可欠だったと考えています。


社会連携推進機構
地域医療DX共創IP担当 **山口典枝 特任教授**

新潟の医療AI・システム開発企業であるビヨンドアス株式会社が担当。現場目線の医療AI開発を通して、本プロジェクトにおける技術実装と遠隔医療基盤の構築を担う核心的な共創企業パートナーとして関わっている。プロジェクトに参画する新潟大学社会連携推進機構の山口典枝特任教授は、現場での変化を次のように語る。

「車椅子での移動や介助が必要で通院が困難だった患者さんのご家族から、『自宅にいながら診察を受けられることが本当にありがたい』という声をいただいています。日常の言語的コミュニケーションが難しい患者さんが、画面越しに主治医の顔を見ると手を振って一生懸命話しかけようとされる。その表情の変化は、患者さんご本人にとっても大きな楽しみや生きがいとなっています」

画期的なのは、訪問看護師が患者の自宅からオンラインで医師とつながり、その場で三者間のコミュニケーションを取る「多職種協働」の実現だ。従来の訪問看護では、看護師が一人で訪問して得た情報を持ち帰り、後から医師に報告・相談するというタイムラグが生じていた。しかし、リアルタイムで医師、看護師、患者・家族が画面越しに顔を合わせることで、その場での迅速な意思決定と深い信頼関係の構築が可能となった。

また、医療従事者の業務負担軽減に向けたアプローチも進化している。オンライン診療中のやり取りを音声入力で自動記録し、AIを用いてカルテや訪問看護記録の形式へと瞬時に自動生成するシステムの実証事業も行われている。

「新しいテクノロジーが入ることで、看護師や医師が書類作成などの事務作業に追われることなく、本来の業務である『患者さんと向き合う時間』を取り戻すことができます。ケアの質を高め、看護の喜びややりがいを実感してもらうことこそが、テクノロジーを導入する真の目的です」と、医学部保健学科の坂井さゆり教授は話す。

医療のデジタル化は単なる効率化のツールではない。むしろ、人と人との温かい対話や臨床の現場を守り、届かなかった場所へ医療を届けるための架け橋となっている。

大学が仲介役になることで医療現場、行政、企業が1つになり地域で課題に向かう体制が整う



れている。医学部医学科と保健学科の学生が合同で遠隔医療の実習を行ったり、工学系の学生がシステム開発や現場の運用課題について医療系の学生と議論を交わしたりする学際的な教育プログラムが既に始動しているのだ。

「早い段階から多職種連携やICT（情報通信技術）の有効活用を学んだ学生たちが将来現場に出ることで、地域の医療従事者や休職中の方々をサポートする循環が生まれます。時代の変化に対応し、地域の課題解決を主体的に牽引できる人材を継続的に輩出すること。これこそが、国立大学だからこそ担える持続可能性への解答です」（坂井教授）

産学官共創がもたらすシナジー

本プロジェクトの展開において欠かせないのが、企業や自治体との緊密な産学官連携だ。システムの開発・運用においては、医療AIスタートアップ企業のビヨンドアス株式会社との強力なタッグが組まれている。現場のニーズを即座に汲み取り、使い勝手の良いシステムへと落とし込む企業のスピード感と技術力が、大学の持つ学術的知見と融合することで、社会実装へのハードルが劇的に下がった。

また、自治体である燕市や十日町市などとの連携により、行政の抱える施策上の課題とダイレクトに結びついた実証研究が可能となっている。大学がハブ（仲介役）となることで、これまで距離のあった医療現場、行政、企業がつながることになり、地域全体で課題に立ち向かう体制が整いつつある。

こうした連携は、大学病院のあり方にも変革をもたらしている。高度で専門的な医療を提供する役割に加え、地域の医療機関をデジタルでバックアップする地域医療支援の拠点としての機能強化だ。実際に、大学病院の高度専門医がオンラインを通じて地域の医師によるロボット手術の支援を行ったり、遠方の訪問診療医からの相談にリアルタイムで応じるドクターバンク機能の運用などが始まっている。大学病院が持つ知と技術をデジタルの網の目で全県に届けることで、地域全体の医療の質が底上げされている。

医療従事者と住民のウェルビーイングを両立する「新潟モデル」

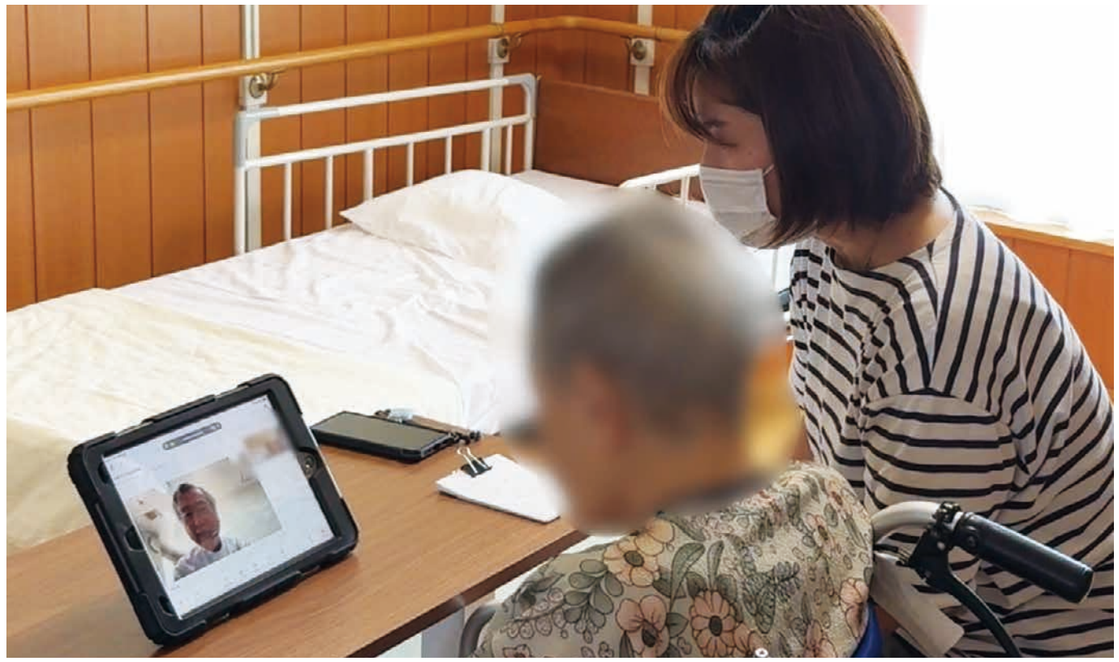
「地域医療DXがもたらす最大の成果は、患者さんや生活者に向き合う時間を増やし、医療を受ける側と提供する側の双方のQOL（生活の質）を高めることにあります」と上村教授は将来の展望を語る。

例えば、これまでは専門医が半日かけて遠方の病院まで往復移動し、少数の患者を診察して戻るような非効率な体制が存在していた。比較的症状が安定している患者に対してオンライン診療を活用できれば、移動に費やしていた時間を高度な診療・研究・教育の時間や医師自身の休息へと充てることができる。心理的安全性と時間的ゆとりが生まれることで、医療従事者はより深い感情と情熱を持って患者に向き合えるようになるはずだ。

「行政、住民、医療者が一体となり『チーム新潟』として、地域包括ケアの本来の姿をデジタルで実装する。この『新潟モデル』を確立し、全国の地方都市へ発信していくことが私たちの使命です。10年後、20年後の日本において、どこに住んでいても誰もが安心して暮らし続けられる社会を創り出したいと思います」（上村教授）

ライフ・イノベーションの精神の下、新潟の地から始まる地域医療DXの挑戦。それは、過疎化と高齢化に悩む日本の地域社会の未来を明るく照らす確かな光となっている。

医療を受ける側と提供する側双方の生活の質を高めることが地域医療DXがもたらす最大の成果





※図：生成AIにより作成

デジタルで人と人を優しく結ぶ——燕市独自の「転ばぬ先の医療」とNHDXへの期待



新潟県燕市役所 健康福祉部 副部長 **本間 修**さん

燕市がNHDXに寄せる期待は、2040年の高齢化ピークを見据えた、本市独自の「転ばぬ先の医療推進」プロジェクトの中核にあります。本事業では、新潟大学が開発した「ポータブルオンライン診療システム」を力強いエンジンとして、持続可能な地域医療モデルの確立を目指しています。

高齢化と生産年齢人口の激減が目前に迫るなか、地域の限られた医療資源を連携させ、地域全体を「面」で結ぶ地域包括ケア体制の構築は極めて重要です。「医療機関と自宅」、「医療機関とグループホーム」を結ぶ2つの実証モデルに加え、現場の医師や介護関係者の皆様からも新たな活用方法について前向きなご提案をいただくなど、さらなる展開に向けた検討も始まっております。

新たな運用への移行プロセスでは、現場の意識改革や運用の最適化など、手探りでの試行錯誤を重ねております。しかしその一方で、移動困難な高齢患者が住み慣れた環境で医療を円滑に受診し、看護師と医師の緊密な連携により不安が解消されていくプロセスに触れ、確かな手応えを感じております。

大学の「知」と地域の「現場力」を掛け合わせる本実証の歩みは、2040年問題を乗り越える強固な基盤形成への価値ある一歩です。今後とも新潟大学の皆様と緊密に連携し、この医療モデルの確立に向けて、一歩一歩取り組んでまいります。



意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介

―教育の現場―

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は
教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

創生学部

金子紘之特任准教授

Hiroyuki Kaneko



Profile　博士（理学）。専門は天体分光学。銀河中のガスの物理的・化学的性質を明らかにし、ガスから星が作られるメカニズムの解明に取り組む。

『データ利活用実践』

社会での活用例から原理を学び
実践を通して社会課題の解決へ繋げる

社会・自然界には、様々なデータがあふれている。データは文字や数字のままでは、その背景に隠れた意味を把握することが困難で、データの中に存在する関係性・意味を見出す手法はデータの性質によって大きく変わる。『データ利活用実践』は、創生学部DX共創コース2年次の必修科目。データの取り扱いを自ら手を動かしながら学ぶことで、DXを通じた課題解決や効率化、新たな価値の創造力を修得する。

「いかに社会と協働して課題を解決するか。その手段のひとつがデータ利活用であり、データを用いてどのように社会にアプローチしていくかが重要です」と担当の金子紘之特任准教授は話す。講義では、社会・自然科学分野から得られる実際のデータを利用し、既存のソフトウェアやプログラミング言語を駆使することで、データの分析・解析の基礎的なスキルを習得する。

「解析手法・ツールの利用方法に留まらず、その手法群の原理を理解することを通じ、データに応じた適切な手法の選択や組み合わせを導き出します。社会が抱える課題に対して、自ら適用、解釈できる能力の獲得を目指します。具体例からイメージを広げて『原理は難しいけど面白い』と感じてもらい、一歩一歩進んでいけるように工夫しています」



授業は対面での講義と演習を実施する。取材日のテーマは「画像データとその加工」。写真のぼかし加工などに使われる「畳み込み」という技術を紹介し、その原理を解説。こうした技術が社会でどのように活用されているかを説明した。その後の演習で学生は実際に作業。金子特任准教授は学生の机を回り、質問を受け付ける。学生が気軽に教員に声をかけられる雰囲気が印象的だ。

「概念だけを学んでも、社会での実装イメージが浮かなければ学習のモチベーションは上がりません。学生には原理を学びつつ、データと社会がダイレクトにつながっていることを楽しんでほしいと思います。データと社会の関係性を意識し、社会課題の解決に貢献する人材を育成したいと思います」

STUDENT'S VOICE



左：三河獅音さん（創生学部2年）
右：大塚隼人さん（創生学部2年）

「将来は理系の分野に進みたいと考えているので興味深く学んでいます。分からないことがあっても気軽に質問ができます。先生が丁寧にサポートしてくれるので心強いです」（三河）「文系出身なので難しいところもありますが面白い授業です。講義で知識をインプットし、演習でアウトプットする授業の進め方も理解が深まります」（大塚）



―小児医療宿泊施設―
ロナルド・マクドナルド・ハウス にいがた
病気と闘う子どもと、その家族が一緒にいられますように。
ハウスの運営は100%皆様のご寄附で支えられています。
温かいご支援をよろしくお願いいたします。
詳細はこちら
URL: https://donation.nu.niigata-u.ac.jp/
お問い合わせ：サポーター連携推進室　TEL：025-262-6010　E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学はもちろん
部活やサークルなどの課外活動でも活躍しています。
このページではそんな青春の1ページをお届けします。



⬆メンバーは52名。活動は新潟大学第一野球場で週3回。大会前は月5～6回の練習試合を行い、精力的に取り組んでいる。

準硬式野球部

監督不在だからこそ育つ主体性!
全員で「楽しむ」学生主体の野球

「監督がいない、学生主体のチームであることが一番の強みです」と語る部長の阿部寧流（しずる）さん。高校野球のような指導者主導の厳しさとは一線を画し、学生同士で意見を出し合い、一人ひとりが考えてプレーする明るい雰囲気が魅力だ。ほぼ全員が野球経験者だが経歴は様々で、女子選手も活躍中。活動への参加は強制されないため学業やプライベートとの両立がしやすく、テスト期間には部員同士で集まって勉強するほど学年・学部を超えた絆は深い。52名という大人数をまとめ、メンバー選考や意見調整に悩むこともあるが、自分たちで悩み抜いて掴む勝利の喜びや、大会運営を通して育まれる自律心と行動力は、かけがえのない成長につながっている。

➡2024年春季北信越大会準優勝・全国大会出場の実力派。秋季大会での3年生有終の美と、全国出場を目指して練習に励む。





部長
阿部寧流さん
（工学部3年）



ときめく「知」の交流。

「ときめいと」は、地域社会への知的貢献を担う目的で設置された
新潟大学のサテライトキャンパスです。
施設は、大小の講義室やミーティングルームのほか、展示イベント等にも
使用できる多目的スペースを備えています。
新潟駅直結の PLAKA1 内に位置しており、アクセスの良さも特徴のひとつです。
新潟大学に関する情報も多数取り揃えています。どうぞ気軽にご利用ください。

詳細はこちら

お問い合わせ　新潟大学駅南キャンパスときめいと
Web サイト：https://www.niigata-u.ac.jp/university/facility/tokimate/
〒950-0911　新潟市中央区笹口１丁目１番地 プラーカ１　２階
Tel：025-248-8141　Fax：025-248-8144　E-mail：tokimate@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学の特色ある研究トピックを紹介

注目される 研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

研究題目

星の死が宇宙の有機物にもたらすのは破壊か創造か？ 望遠鏡で探る星間分子の世界

超新星残骸で多様な有機分子を含む「星のゆりかご」を初発見 宇宙の物質進化に迫り人類の知を増やす

星や惑星は分子雲の中で誕生し、生まれたばかりの星は「ホットコア」と呼ばれる暖かい分子ガスに包まれている。水や複雑な有機分子が存在するホットコアは、星の形成と物質の化学進化を理解する上で重要な領域として注目されている。銀河系内外のさまざまな環境下で星間分子や星形成活動を研究する下西隆准教授は、星の爆発が起きた領域で、複雑な有機分子を含む「星のゆりかご（ホットコア）」を世界で初めて発見した。



理学部
下西 隆 准教授

| Profile | 博士（理学）。専門は天文学。赤外線・電波天文観測による星間物質の生成および進化の歴史について研究。2019年度宇宙科学奨励賞受賞。

「星や惑星が生まれる過程では、同時に物質の化学反応や変遷も起こりますが、その多くはいまだ明らかになっていません。世界各地の最先端の望遠鏡による観測データを用いて、星や惑星、生命の材料となる物質がどのように作られ、進化していくのかを観測・実験・理論の観点からアプローチしています。中でも、銀河系の果てや超新星爆発の影響を受けた領域といった特殊環境下における物質進化の解明に注力しています」

約1,600年前に起きた超新星爆発によって生じた超新星残骸に着目し、アルマ望遠鏡を用いて観測。星の赤ちゃんを包むホットコア2天体を発見し、多様な有機分子の存在も明らかにした。

「超新星爆発という宇宙最大規模の爆発が起きた領域周辺は、強烈な衝撃波や放射線などの影響を受ける過酷な環境です。にもかかわらず、生まれたばかりの星はそのゆりかごに守られ、複雑な有機分子は生き延びていました。爆発した星との位置関係や経過時間、磁場など、要因については調査中ですが、今回の観測結果から、有機分子が存在する場所は



⬆超新星残骸に発見された星の赤ちゃんを包む暖かい分子ガスのゆりかごの想像図。青色は超新星爆発により生じた高エネルギー粒子や光子、茶色は星間物質を表している

私たちが考えていたよりも多様で、過酷な宇宙環境でも化学的な豊かさが保たれることを示唆しています」

今回の発見が普遍的な描像なのか、それとも環境の違いによって星・惑星材料物質に変化が生じるのか。現在は、ほかの超新星領域や爆心地により近い領域での観測を視野に入れつつ研究を推し進める。

「発見した天体を詳細に分析し、有機分子の存在比率が穏やかな星形成領域の類似天体と共通することも明らかにしました。この成果は、宇宙における有機分子の多様性だけでなく、太陽系誕生時の環境をひもとく新たな知見となる可能性があります。これからもさまざまな分野の研究者と連携しながら、星の死が宇宙の物質進化にどういった影響をもたらすのかを探究していきたいです」

研究題目

心理療法は、なぜ・どのように効いているのか？ ー理論と実態の統合を目指してー

理論の外にあるものを理解 心理療法を徹底的に可視・実在化

「目に見えない心を扱う心理学はどこか曖昧なイメージでした。しかし、学部生時代に実際の行動を科学的に分析して心にアプローチする認知行動療法の存在を知りました。そこでの興味が現在までの研究に繋がっています」と横山仁史講師。対話などを通して心の問題を解決する心理療法の中でも、行動活性化療法が研究対象だ。うつ病の治療方法として開発された行動活性化療法は、楽しさや満足感につながる行動を増やし、習慣化することで症状を改善していくというもの。症状の軽減よりも生活の質や満足度を高めることを目指す治療法で、幅広い疾患に適用されている。

「これまでの心理学では目に見えない心を“仮に存在するもの”という抽象的な概念として捉え、状態や変化を説明してきました。しかし、それだけでは実際の治療プロセスを説明することはできません。心理療法の効果の可視化と実在化が課題になりました」

「心理療法は本当に理論通りに作用しているのか」という疑問から始めたのが、理論モデルに沿った変化の過程の徹底的な計測だ。

「活動量計を装着した参加者から、1時間ごとにその時に感じた楽しさや満足度を1週間にわたり報告してもらい、身体活動量と抑うつ状態との関連性を分析しました。結果、身体的な活動に対して“楽しい”という気持ちが伴う人ほど、抑うつ行動が少ないという結果が得られました。これは行動活性化療法の治療理念を裏付けるものです。また、患者と治療者の会話を分析し、治療理論に沿った変化が実際の治療過程でも起きていることを確認しました。カウンセリング時の音声や表情を分析・可視化することで、効果的な患者への接し方やふるまいを検証することもできます」

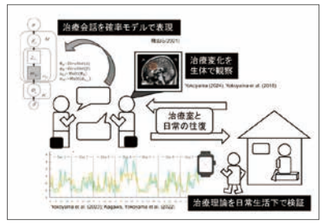
心理療法の効果を仮説ではなく、理論的に正しく説明できることが重要だと考える横山講師。将来的に目指すのは、自身の専門と脳科学を結びつけた新しい治療方法の開発だ。

「私たちが通常の心理療法で行っている対話を中心としたカウンセリングと、最新の神経科学の知見や脳の働きを結びつけることで、より効果を高める新しいアプローチが期待できます。患者が安心して治療を受けられる心理療法を確立し、それを実践できる治療者の育成に貢献したいと思います」



人文学部
横山仁史 講師

| Profile | 博士（医学）。専門は臨床心理学と精神神経科学。精神疾患に対して心理学的アプローチによる研究を行っている。



➡心理療法の場面やその効果、また、その治療理論と実生活の対応について客観的データを測定しながら、心理療法の可視化を試みている

特別なあなたに 特別な1枚
「新潟大学カード」
入会受付中！



新潟大学全学同窓会では、三菱UFJニコスと提携して、ゴールドプレステージの「新潟大学カード」を発行しています。多くの特典を享受できるとともに、新潟大学の支援にもつながります。入会のお問い合わせは全学同窓会まで。

特典 年会費無料 海外・国内旅行傷害保険付き（最高3,000万円） 国内主要空港のラウンジが無料

新潟大学カードに関するお問い合わせ先
新潟大学全学同窓会事務局
電話：025-262-7891
（受付時間 平日 10：00～15：00）
E-mail：n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学キャリア・就職支援オフィス
CAN システム

志望業界，企業で働く先輩に質問したい！
会社の中の様子について知りたい！



卒業生と新潟大学生をつなぐ，キャリア形成サポートの新しいカタチ！
卒業生と学生をつなぐ CAN システム
CAN システムとは Web 上のシステムを介して，
学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。
社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！

卒業生の皆様のご登録をお待ちしています！ 新潟大学 CAN システム 検索 URL https://www.career-center.niigata-u.ac.jp /

お問い合わせ先 新潟大学キャリア・就職支援オフィス TEL:025-262-6087 FAX:025-262-7579 E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

活躍する卒業生紹介 “学びの先”

新潟大学で“真の強さ”を学び、社会に羽ばたいた16万人を超える卒業生。社会で活躍する卒業生をご紹介します。

■木彫作家 手塚千晴さん



Profile.
新潟県阿賀野市出身。新潟大学大学院教育学研究科修了後、東京の木材商社勤務を経てUターン。2020年より『三人展』等で作品を発表し、第79回新潟県美術展覧会彫刻部門で県展賞を受賞。木彫作家・造形講師として活動中。



木目に逆らわず、自然に沿って彫るというスタイルを一貫して続ける。素材の良さを活かし新潟の風景や季節をイメージした作品が作られる

素材との対話から生まれる表現で自然の美を形に

現在、木彫作家として新潟を拠点に表現活動を行っている手塚千晴さん。2005年に新潟大学教育人間科学部芸術環境創造課程（当時）に入学し、造形表現コースで彫刻を専攻した。「幼い頃から絵を描くことやものづくりが好きで、その延長で新潟大学に進学しました」と語る。1年次に様々な美術分野を横断的に経験する中で特に魅せられたのが木を削って作品を生み出す「木彫」だった。

『大学の友人と経験があったからこそ制作の場所へ戻ってこれた』

自分の性にとても合っていたのだと思います」

大学院を含めた6年間の学生時代は、うちのDEアート、西区DEアートなどの地域密着型アートプロジェクトの活動と並行して制作を行い、素材と深く向き合う基礎を培った。大学院修了後は「木のプロになりたい」という思いから、輸入建材を扱う東京の商社に就職。営業や提案業務に7年間従事した。その後、結婚や2人目の出産を機に新潟へUターン。育児や家族の介護などが重なる多忙な日々を送る中で、手塚さんを精神的に支えたのは、学生時代に夢中になった木彫だったという。

「どんなに忙しい時期でも意地になって木を彫り続けていました。新潟の美しい山並みや雲の景色など、豊かな自然やランドスケープをモチーフに彫り進める作業は、自分自身を癒やし、支えてくれる不可欠な時間だったのだと思います」

転機となったのは、新潟で再会した大学時代の同級生たちとの食事の席での何気ない会話だった。「挑戦しないまま終わりたくない」とお互いに刺激を受け合い、共同で展示会を開催したことをきっかけに本格的な創作活動を再開。自身の作品が賞を受賞したことで「やれるところまで挑戦してみよう」と覚悟が固まったという。

現在は、これまでの自己対話的な表現にとどまらず、見る人や社会に求められる作品づくりを目指して新たな模索を続けている。「大学時代に教わった『素材との向き合い方』があったからこそ、一度現場を離れても再び制作の場所へ戻ってくることができました。今後は完成度や表現力をさらに高め、社会とつながる作品を発信していきたいです」と、真摯な眼差しで今後の展望を語ってくれた。

Information

■インスタグラム
https://www.instagram.com/chiharuteduka/



新潟大学ネーミングライツ事業パートナー募集中

新潟大学では、施設等の有効活用及び教育研究環境を強化することにより、本学の価値を向上させることを目的としたネーミングライツ事業の実施にご賛同いただける事業者等を募集しています。

詳細はこちら

URL:https://www.niigata-u.ac.jp/university/about_nr/

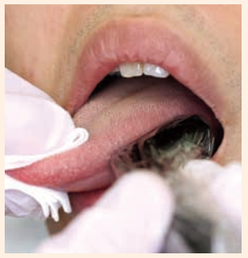
お問い合わせ：サポーター連携推進室　TEL：025-262-6010　E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

COLUMN ◆ 新潟大学教員によるコラム

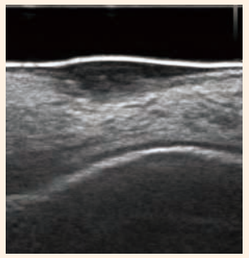
“知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイディアを綴るリレー式コラム。第38回は歯学部です。

第38回●歯学部「歯科でもエコー？ −超音波で口の中を診る」



舌の左側の縁に小型の超音波プローブを当てて観察している様子



舌がんの超音波画像（中央の紡錘形に黒く見える部分ががん）

「エコー検査」と聞くと、皆さんはどのような検査を思い浮かべるでしょうか。おなかの赤ちゃんを見る検査や、心臓や肝臓などを調べる検査を思い浮かべる方が多いかもしれません。実は近年、歯科でも超音波を使って「口の中を診る」試みが進んでいます。

超音波とは、人の耳には聞こえないほど高い周波数の音のことをいいます。その原理は、山びこ（英語でecho［エコー］）とよく似ています。体に超音波を送り、組織と組織の境目から返ってくる音を受け取ることで、体の中を画像として見ることができます。X線を使わないため放射線被ばくがなく、必要に応じて繰り返し観察できることも特徴です。また、超音波を送受信する部分を「プローブ」といい、これを体に当てて動かしながらリアルタイムに画像を見ることができるので、「いまここを見たい」という部位をその場で確認できます。

歯科の画像診断といえば、皆さんはまずX線写真を思い浮かべるでしょう。また、歯科でも使われるCTは歯や顎の骨を立体的に詳しく見ることを得意とし、MRIは軟らかい組織の観察に優れています。一方、超音波検査には骨や空気の奥を見ることが苦手という弱点がありますが、体の表面に近い軟らかい組織を手軽に観察することには適しています。

実は口の中には、超音波で観察するのに適した部位がたくさんあります。ただし、一つ問題があります。通常の超音波検査で使われるプローブは、口の中に入れるには大きすぎます。そこで、小型のプローブを口の中に入れて直接観察する「口腔内超音波検査」という方法が研究されるようになりました。私たちの研究室でも、その診断法の開発と臨床応用に取り組んでいます。

特に研究しているのが舌がんです。舌がんでは、表面に見える病変の大きさだけでなく、がんが舌の中へどのくらい深く入り込んでいるか」も、診断や治療方針を考えるうえで重要です。これを「浸潤の深さ（Depth of Invation：DOI）」と呼びます。口腔内超音波検査では、小さなプローブを舌の表面に当てることで、病変の全体的な広がりをリアルタイムに観察し、その深さを測ることができます。

さらに、超音波で見ることができるのは舌だけではありません。歯肉（歯ぐき）や頬の粘膜など、口の中には超音波検査が得意とする浅い場所の組織が数多くあります。装置やプローブの小型化、高性能化が進めば、これまでとは違った歯科診療への応用も期待できます。

もちろん、超音波検査だけですべての病気が分かるわけではありません。口の中を直接見る、触れる、そしてX線、CT、MRIなどで調べる。それぞれの方法には得意なことと不得意なことがあります。大切なのは、目的に応じてそれらを使い分け、組み合わせることです。さらに、超音波検査には、装置を小型化しやすく、比較的低コストで導入できるという利点もあります。将来、歯科医院で診察を受けたとき、歯科医師が小さな超音波プローブを手にして口の中を診る光景が、珍しくなくなるかもしれません。そんな未来の歯科診療の可能性を探っています。

※本稿の作成にあたり、文章表現の推敲に生成AIを利用しました。



林 孝文
大学院医歯保健学研究科 教授

長野県出身。博士（歯学）。専門は歯科放射線学。X線、CT、MRI、超音波検査などを用いて、歯や口、顎の疾患を画像で診断する研究に取り組む。特に口腔がんを対象とした口腔内超音波診断の研究を進めている。

75th Anniversary NIIGATA UNIVERSITY 1949・2024
新たな挑戦 大きな貢献

創立75周年記念募金

次世代の人材育成と科学の発展に寄与し、社会に貢献する 新潟大学

卒業生の皆様をはじめ、多くの皆様のご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

詳細はこちら
https://www.niigata-u.ac.jp/75th/

お問い合わせ　サポーター連携推進室　TEL：025-262-5651　E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

ー学生の輝く未来を共に創るー 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学基金

■目的　新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿（R8.3～R8.8寄附入金分）※（50音順 敬称略）

〈 個人 〉
味戸 隆祥　今井 ありん　岡田 朋倫　齋藤 重徳　新保 淳輔　滝澤 哲也　坪田 孝文　中谷 尚登　福島 健泰　森 勇造　吉田 滋
阿達 香代子　今井 かおり　賀澤 清次　齋藤 龍也　諏佐 保男　武田 恭一　寺田 剛　中村 敬一　古川原 誠　柳本 雄司　米岡 有一郎
阿部 和久　岩田 喜美枝　梶原 謙一　齋藤 紘丈　鈴木 高志　田中 雅史　寺田 剛　根津 雅子　本田 孝雄　山口 啓朗　米川 宏一
安澤 直樹　上田 眞圓　加藤 僖一　坂口 愛実　鈴木 寛人　谷内 幸久　外山 久泰　長谷川 直美　松島 弘佳　山口 利恵　渡部 雄一郎
飯田 伸行　上松 正次　金子 淳一　佐藤 耕　住田 孝二　田村 美幸　豊田 武久　濱田 一成　松山 勇仁　山﨑 秀　渡部 厚史
石井 伸幸　内山 政二　金子 峰　佐藤 純一　関 一弥　丹野 尚　豊田 武久　原 晃浩　三星 隆司　横野 知江　匿名希望111名
石田 武裕　内山 智貴　黒澤 昌基　塩田 麟　高橋 厚子　土崎 宏人　鳥山 高史　日比 登史男　村田 雅史　横山 綾美
井手 協太郎　遠藤 由美子　古泉 肇　島田 敏夫　高橋 大生　土田 克則　長倉 成憲　平井 敏彦　森 俊彦　横山 恒
伊藤 道一　大嶋 康義　小林 俊裕　清水 まゆみ　高橋 麻里　土田 葉子　中谷 高広　廣田 巨樹　森 正勝　吉澤 初記

〈 団体 〉 株式会社ITスクエア　アカシア会　あがの市民病院売店　新潟市立茨曽根小学校5年生一同　株式会社ウィザップ　越後ファーム株式会社　ENEOS Xplora株式会社　亀田製菓株式会社　株式会社川崎商会　株式会社コーシン　サントリービバレッジソリューション株式会社　ＪＡ新潟厚生連柏崎総合医療センター売店　JA新潟厚生連けいなん総合病院　JA新潟厚生連上越総合病院　JA新潟厚生連新潟医療センター　Japan Trinity Creation 株式会社　株式会社誠和アグリカルチャ　胎内電建工業株式会社　株式会社中越加工　ナミックス株式会社　新潟医療生活協同組合木戸病院　新潟県福祉保健部健康づくり支援課成人保健係　新潟県立新潟高等学校　新潟大学生活協同組合　新潟大学土木同窓会　新潟大学理学部後援会　株式会社ネクスコ・エンジニアリング新潟　ピアノ教室リエート　株式会社BSNアイネット　株式会社ブルボン　星野電気株式会社　株式会社和光ベンディング　匿名希望10団体

新潟大学まなび応援基金

■目的　経済的理由により修学が困難な学生及び障がいのある学生に対して、修学支援事業を行います。
「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」の支援により、修学・学生生活支援及び経済支援を行っております。

■寄附者名簿（R8.3～R8.8寄附入金分）※（50音順 敬称略）

〈 個人 〉 石田 武裕　上松 正次　大嶋 康義　岡村 光展　佐藤 純一　丹野 尚　寺田 剛　森 俊彦　山﨑 秀　吉田 滋　米岡 有一郎　米川 宏一　渡部 厚史　匿名希望10名

〈 団体 〉 ナミックス株式会社

新潟大学研究等支援基金

■目的　学生等又は不安定な雇用状態にある研究者への研究等を支援する事業を行います。
令和4年1月に創設し、「未来社会を牽引するグローバルな総合知を備えたフロントランナー育成プロジェクト」により、大学院生の研究費支援を行っております。

■寄附者名簿（R8.3～R8.8寄附入金分）※（50音順 敬称略）

〈 個人 〉 金子 明　田村 美幸　外山 久泰　山﨑 秀　匿名希望5名

クラウドファンディング

■目的　インターネットを通して、本学が設定した具体的なテーマやプロジェクトに共感した方や応援したい方から資金を募り、各プロジェクト事業を推進していきます。

■寄附者名簿（R8.3～R8.9成立分）※（50音順 敬称略）

プロジェクト名：地域と共に創る新たなふるさと｜新潟大学ダブルホーム活動にご支援を

〈 個人 〉
阿部 春乃　上野 洋子　紙谷 智彦　齋藤 康　志賀 美佐子　田中 繁史　中野 優　平賀 智之　宮崎 哲史
池嶋 武盛　牛木 辰男　神長 真晴　佐久間 紗也加　志賀 義雄　小鳥遊 まゆか　中野 莉々子　樋脇 大征　森下 英矢
石川 和毅　大島 勇人　河口 洋一　佐々木 真由美　渋谷 俊文　高波 悟　中村 貴明　福井 直樹　森田 恵
石川 久作　大橋 慎太郎　菊永 淳　笹口 亮介　杉山 健太　高橋 秀樹　西 洋平　古川原 誠　森 勇造
石附 誠　大山 達也　北澤 弘美　佐藤 亜希子　村山 晶子　棚橋 是之　根田 孔明　堀米 京子　箭内 克俊
市川 賢一　岡崎 史子　小池 俊木　佐藤 健二　清野 典雅　田村 侑也　服部 香凜　本間 麻衣　山城 秀昭
市川 諒　小﨑 穂高　小林 紘大　佐藤 高博　関 隆宏　千野 智央　服部 正人　松下 泰之　山田 裕貴
伊藤 嘉高　乙川 智子　小林 麻衣子　佐藤 正郁　高澤 栄一　冨成 麻衣　林田 宏三　三浦 伸一　吉田 輝
井上 未菜　小原 弘　小宮山 智志　佐藤 光子　高杉 浩文　ナカノ ケイタ　飛田 正玄　宮崎 勝己　渡辺 英雄　匿名希望88名

〈 団体 〉 加茂ロータリークラブ　株式会社後藤組　佐潟と歩む赤塚の会　別俣みんなのふるさと推進協議会　別俣農村工房

プロジェクト名：「よみがえる新潟の記憶」地域の映像を“未来の宝物”に！

〈 個人 〉
秋山 亜弥子　大竹 惠子　児玉 和也　柴田 昌平　寺尾 仁　藤田 幹子　丸山 裕輔
阿部 剛　岡崎 篤行　小林 隆幸　菅谷 昌弘　寺崎 英子　古川 陽之　水島 久光
池川 玲子　亀貝 太治　小林 俊裕　鈴木 秋子　富山 聡仁　古川 修　水野 孝文
石山 昱　河上 進　小林 博隆　鈴木 英介　豊島 淳子　古川原 誠　森山 徹
板倉 史明　河村 啓生　近田 梨絵　高木 規行　南波 章子　細川 清一　八島 修
稲葉 仁　清田 麻衣子　齋藤 義明　高城 玲　花岡 里子　細田 あや子　箭内 克俊
井上 征剛　楠本 亜紀　左近 幸村　高橋 智　阪田 清子　堀川 雅弘　渡邉 隼人
今井 さやか　久保 有朋　笹倉 いる美　高橋 由美子　広川 牧恵　松浦 さと子
榎本 清美　甲田 文一　若崎 敦朗　高橋 良一　藤石 貴代　松尾 雄一　匿名希望52名

プロジェクト名：佐渡島発！カードゲームで自然共生を自分ごと化できる未来を創りたい

〈 個人 〉
赤石 大輔　池田 厚志　今井 厚子　尾島 晃司郎　久保田 正秀　坂口 ユカリ　高橋 優介　土門 央樹　西廣 淳　藤野 純一　森崎 哲正
赤石澤 大貴　石塚 祥子　江井 仙佳　小山田 那由他　倉阪 秀史　笹渕 紘平　太齋 彰浩　仲川 公二郎　新田 将之　本間 勉　山本 一樹
赤木 美日　井尻 貴子　大崎 哲生　片岡 直之　小出 徹　佐藤 慎一　多田 琴子　仲川 純子　橋本 禅　本間 浩人　吉川 夏樹
秋山 和也　出浦 康進　大谷 道生　勝田 淳二　小林 俊裕　信田 智行　田原 敬一郎　中川 眞人　長谷川 剛　本間 祐一　吉田 敦也
秋山 淳　伊藤 浩二　岡崎 空　蟹谷 慧　小林 泰英　正司 正　田村 稔　長島 匠　花井 啓　本間 涼　渡邊 佳奈子
浅野 繭　伊藤 毅　岡部 健太郎　亀岡 雅紀　近藤 綾子　新谷 祐太　土田 倫也　中城 啓太　林 浩二　待場 智雄　渡邊 智美
浅利 美鈴　伊藤 満智　小川 圭太　川上 司　近藤 康久　清野 彩乃　土谷 真喜子　永田 哲　春川 訓容　松本 良平　渡辺 浩匡
飯田 碧　井ノ口 寛　沖野 香織　菊地 直樹　齋藤 和郎　高澤 陽二郎　津端 康志　長田 悠馬　笛木 茜　宮里 大八　綿引 大祐
池 倫子　猪原 健弘　尾崎 雄太　北口 俊一　斎藤 紗織　高塚 敏　土岐 大介　中村 隆志　福島 蓉子　宮原 伸朗　度會 きぬ　匿名希望101名

〈 団体 〉 一般財団法人自然環境研究センター　しまふうみ　学校法人東京環境工科学園東京環境工科専門学校

新潟大学サポーター倶楽部

■目的　継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。
また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。
https://donation.nu.niigata-u.ac.jp/supporterclub/

サポーター倶楽部についてはこちら

【R8.3～R8.9 新規入会会員のご紹介】※（50音順 敬称略）

〈 個人 〉 河内 琢馬　関川 博　野口 亜希子　藤田 由美　古川原 誠　匿名希望1名

〈 団体 〉 株式会社いすゞ製作所　越後製菓株式会社　株式会社NS・コンピュータサービス　株式会社オーエム製作所長岡工場　株式会社佐文工業所　SKY GROUP モトーレンニイガタ株式会社　田辺工業株式会社　常石三保造船株式会社　デュポン・パフォーマンス・プロダクツ・ジャパン株式会社　長岡石油株式会社　新潟電子工業株式会社　マコー株式会社　有限会社ミヤケ食品新潟営業所

■絆を深め更なる発展へ

全学同窓会との懇談会を開催しました

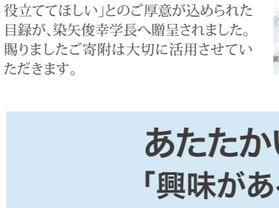



7月18日に松風会館第１会議室において、全学同窓会と新潟大学との懇談会を開催しました。
この懇談会は、本学と全学同窓会との交流を深め、さらなる連携強化に繋げる機会として毎年開催しています。本学からは学長をはじめ27名、全学同窓会からは各学部同窓会長を含む15名が参加しました。
染矢学長及び臼杵全学同窓会長による挨拶の後、各学部同窓会長から近況報告、ならびに臼杵全学同窓会長から全学同窓会における学生支援事業や近況について報告がありました。
続いて、各学部等の近況について各学部長から報告があり、参加者は内容に耳を傾けながら理解を深めていました。
その後、会場を松風会館旧はまなすに移して行われた懇親会では、終始和やかな雰囲気の中で活発な意見交換が行われ、参加者同士の交流も深まり、大変有意義な懇親の場となりました。
本学では、今後も全学同窓会との緊密な連携を図りながら、ますますの発展に向けて尽力してまいります。

■学びと医療の未来を支えるご支援に感謝

ナミックス株式会社様より寄附金目録を受贈いたしました

7月16日、ナミックス株式会社様を訪問し、同社より学生の修学支援およびロナルド・マクドナルド・ハウスにいがたの運営活用を目的とした寄附金目録受贈式が執り行われました。
ナミックス株式会社様からは、3,000万円のご寄附を賜りました。
受贈式では、ナミックス株式会社 代表取締役社長 小田嶋壽信様より、染矢俊幸学長へ寄附金目録が贈呈され、続いて染矢学長より感謝状と記念盾をお渡しいたしました。
いただいたご寄附は、新潟大学基金およびまなび応援基金に受け入れ、学生の修学支援、人材育成、そして小児医療施設のために大切に活用させていただきます。
今後も地域企業の皆様との連携を深め、学生の学びと地域課題解決を支える取り組みを推進してまいります。




■ふるさと納税で、新潟大学を応援

ふるさと納税が学生支援につながる「新潟大学応援ふるさと納税」を開始しました

本学は、新潟県総務部大学・私学振興課と連携し、個人版ふるさと納税制度を活用した「新潟大学応援ふるさと納税」を７月24日に開始いたしました。
本制度により、県内外の皆様がふるさと納税を通じて、新潟大学を応援できるようになります。いただいたご支援は、学生の修学支援、国際交流の推進、課外活動環境の充実などに活用し、地域と世界を結ぶ知の拠点として、未来を担う人材の育成に役立てられます。
県民の皆様はもとより、卒業生や新潟大学を応援したい全国の皆様が、ふるさと納税を通じて、学生の学びと挑戦を支援できる新たな仕組みとなります。
温かいご支援をよろしくお願いいたします。

■ 個人版ふるさと納税制度を活用した「新潟大学応援ふるさと納税」の概要
- **制度開始日**：令和8年7月24日（金）
- **寄附先**：新潟県
- **活用先**：新潟大学
- **活用方法**：新潟大学における以下の事業に活用
  ①新潟大学修士課程奨学金（新設予定）
  ②国際交流推進事業
  ③課外活動応援基金（学生生活充実費）
- **申込サイト**：新潟県ふるさと納税サイト
  「ふるさとチョイス」新潟大学ページ

お申込みはこちらから

■充実した支援体制で遺贈寄附をサポート

一般社団法人大学寄附遺贈協会との協定締結式を行いました



6月５日、本学は遺贈寄附に関する支援体制の充実を目的として（一社）大学寄附遺贈協会（東京都千代田区、田中耕司代表理事）様と協定を締結しました。
当日は、染矢俊幸学長による挨拶の後、同協会の田中耕司代表理事より御挨拶をいただきました。続いて、両者による協定書への署名を行い、協定を締結しました。
本協定により、遺贈寄附に関する専門的な知見を活かした相談体制を構築し、遺贈寄附を検討される方々が安心して想いを託すことのできる環境づくりを推進してまいります。

■地域の力で支える子ども医療の未来

株式会社第四北越銀行からの寄附金受贈式を行いました

10月1日、本学は株式会社第四北越銀行様から「にいがた子ども医療未来基金」へのご寄附を賜り、受贈式を執り行いました。
同日、本学と株式会社第四北越銀行様は、地域課題の解決と新たなイノベーションの創出を通じた地域社会の持続的な発展を目指し、新たに包括連携協定を締結しました。本包括連携協定に基づく具体的な取組の一つとして、このたび、「にいがた子ども医療未来基金」へご寄附を賜りました。
受贈式では、株式会社第四北越銀行 殖栗頭取から、「現在計画が進められている『新潟県子ども医療センター（仮称）』の実現と新潟県の小児医療のさらなる充実に役立ててほしい」とのご厚意が込められた目録が、染矢俊幸学長へ贈呈されました。
賜りましたご寄附は大切に活用させていただきます。



■こども医療の未来に、大きな一歩

ライオンズクラブ国際協会333-A地区様からの寄附金受贈式を行いました

9月9日、本学は新潟県庁において、ライオンズクラブ国際協会333-A地区様から「にいがた子ども医療未来基金」へのご寄附を賜り、受贈式を執り行いました。
同日、本学と新潟県は、高度小児専門医療を担う人材の育成と診療・研究体制の充実を目的とした「高度小児専門医療の提供体制確保に向けた連携協定」及び「小児集中治療医学講座設置に関する協定」を締結しました。
本学では、これらの取組を推進し、子どもたちが将来にわたり安心して質の高い医療を受けられる環境づくりを支援することを目的として「にいがた子ども医療未来基金」を創設し、このたび、ライオンズクラブ国際協会333-A地区様より、本基金への第１号となるご寄附を賜りました。
受贈式では、ライオンズクラブ国際協会333-A地区 地区ガバナー 山崎健吾様から、「小児がん治療や小児集中治療などの高度小児専門医療体制の充実のために役立ててほしい」との思いが込められた目録が、菊地利明医歯学総合病院長へ贈呈されました。
賜りましたご寄附は、子どもたちとそのご家族が安心して過ごせる医療環境の整備や、「新潟県子ども医療センター（仮称）」（令和10年度開設予定）の運営体制の充実などのために、大切に活用させていただきます。



あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧いただけます。

お問合せ先　新潟大学サポーター連携推進室　TEL 025-262-5651・6010・6356　E-mail kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp　HP https://donation.nu.niigata-u.ac.jp/

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動を続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。





第4回新潟大学紡の会を開催しました

令和８年５月13日、ANAクラウンプラザホテル新潟において、「第４回新潟大学紡の会」を開催しました。本会は、開始から５年目を迎えた各共創IPの活動や成果を紹介し、地域の皆様との対話を深めることを目的としたもので、当日は自治体、産業界、大学等から計212名が出席しました。

第１部では、国立大学を核とする地域構想推進プラットフォームに係る基調講演に続き、本学の取組について説明があり、８つの共創IP担当者から、それぞれの具体的な活動や今後の展望についてのショートプレゼンテーションが行われました。第２部では、参加者全員による対話の場としてポスターセッションが実施され、参加者はポスターを囲みながら活発に意見を交わしました。

本学は、今後も教育研究成果をもとに、地域の皆様との対話を重ね、地域創生のさらなる発展に取り組んでまいります。

URL：https://www.niigata-u.ac.jp/news/2026/1116222/

本学とオイシックスが大学院に共同設置する新たな学位プログラム「フードテック・イノベーションプログラム（仮称）」がNEDOの支援事業に採択されました

本学とオイシックス株式会社は、本学大学院に新たな学位プログラムとして「フードテック・イノベーションプログラム（仮称）」の設立を共同で準備しています。令和8年7月7日、本プログラムを含む提案が、NEDOの「科学とビジネスの近接化時代の大規模産学連携拠点形成事業」に採択されました。

本プログラムは、経済産業省が推進する「契約学科制度」に基づく国内先行事例となります。社会課題の解決と産業イノベーションを同時に牽引する人材の育成を目指し、令和10年4月に本学大学院総合学術研究科自然科学専攻の博士前期課程として開設する予定です。

将来的な定員拡大を含め、令和17年までに世界の食の未来を切り拓く高度人材を100名以上輩出することを目指しています。

URL：https://www.niigata-u.ac.jp/news/2026/1168990/

大学経営人材サミット2026を開催しました



令和８年９月７日、東京コンベンションホールにおいて、「大学経営人材サミット2026」を開催しました。本サミットは、「J-PEAKS WEEK」の幕開けとなるフラッグシップイベントとして、「大学経営人材」に焦点を当て、大学経営の高度化や社会・産業界との共創に関する先進事例を共有し、これからの大学経営のあり方について議論を深めることを目的として実施しました。

第１部では、大学経営に関する先進事例が紹介され、第２部では、全国15大学によるポスターセッションのほか、意見交換会を実施。大学経営人材に求められる能力や専門性などについて活発な議論が交わされました。

本学では、今後もJ-PEAKSの取組を通じて研究力強化と社会との共創を推進するとともに、大学経営人材の育成や大学改革に関する全国的な議論・連携の場づくりに貢献してまいります。

URL：https://www.niigata-u.ac.jp/j-peaks/news/1255864/

新潟大学季刊広報誌 六花 RIKKA 2026. SUMMER & AUTUMN No.57
発 行／2026（令和8）年11月
編 集／新潟大学広報室（新潟市西区五十嵐2の町8050番地）
電 話／025-262-7000
Home Page https://www.niigata-u.ac.jp/
E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp

定期送付のお知らせ 季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報室までご連絡ください。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。